

Ⅰ 研究主題について

(Ⅰ) 研究主題

進んで考え、伝え合い高め合う授業づくり

～伝え合う場の充実を通して～

(2) 令和6年度の研究より

令和6年度の研究主題は次のものである。

自ら考えお互いの考えを高め合う授業の創造
～算数科を中心とした予習学習と伝え合う活動の充実を通して～

この研究主題の下、次のような授業研究・授業改善を行った。

- ・めざす子供像の視点に基づいた教育活動の展開
- ・研究授業における KTY の視点を焦点化した模擬授業⇒授業参観⇒事後協議
- ・予習を用いた授業展開
- ・授業の中で伝え合う場の設定
- ・全学級の研究授業実施
- ・自由参加の指導力アップ学習会を年10回実施

以上の取組から得られた成果と課題を以下に示す。

【成果】

① 学力調査より (CRT)

○各教科・領域で上昇傾向が見られる。(表1)

○全国比100以上の項目(表2)

R5 国語:3 算数:3 理科:1

R6 国語:12 算数:15 理科:2

特に算数の上昇率が高い

表1

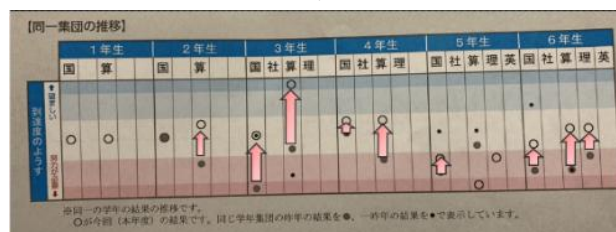


表2

R 5						R 6					
国語	算数	理科	国語	算数	理科	国語	算数	理科	国語	算数	理科
3	3	1	12	15	2	3	3	1	12	15	2

②研究の手法について

令和6年度末に行った校内研修より、次の手法については教職員から肯定的な評価が得られた。

〈予習について〉

- 受け身にならず、課題意識をもって授業に臨めるようになった。
- 子供がやることを理解しているので指導が入りやすい。

〈伝え合う活動について〉

- 双方向に伝える活動は効果的だった。
- ミニホワイトボードの活用が有効だった。

【課題】

①学力調査より(CRT)

△主学態は知技、思判表と比べて低い傾向にある(アンケート回答)

②研究の手法について

〈予習について〉

- ▲準備の大変さがある。
- ▲学力との関連については不明である。
- ▲予習ルーブリックの活用が進まなかった。
- ▲家庭で予習してくる前提をつくることに疑問がある。
- ▲いろいろな予習の方法や目的について認識しておく必要がある。

(3) 主題設定の理由

以上より、令和6年度に行った研究の柱として「予習」と「伝え合う活動」については、効果的だったといえる。
しかし、予習に関してはその手法を追究し効果的な実践を行うことが困難であった。
そこで、令和7年度は「伝え合う場の充実」を研究の柱とし、児童の資質・能力の育成を目指すこととする。
なお、伝え合う場の充実に資する要素として、「基礎学力の定着」も研究の内容に含んでいる。

2 研究の仮説と研究の柱

(1) 研究の仮説

伝え合う場の充実を図れば、児童が自ら進んで考える力や互いの考えを高め合う力を育むことができるだろう。

(2) 研究の柱

伝え合う活動の充実

3 研究の内容

(1) 研究の方法

- ①視点を焦点化した授業研究（模擬授業⇒授業参観⇒事後協議）
※授業研究の際、教科は授業者が選択する
- ②理論研修（指導主事を招聘しての研修やオンデマンド研修等の活用）

(2) 指導の工夫

【伝え合う活動の充実】

- ①視点を明確にした上で行うペアトーク・グループトーク
- ②考え方の違いや誤答を大切にした授業展開
- ③聞き方・話し方の指導（掲示物） ④ICT の効果的な活用

【学びの振り返り】

- ①ルーブリックの活用（R6年度作成した掲示物の活用） ②効果的な家庭学習

【基礎基本の徹底】

- ①個の実態に応じた学力補充（木曜放課後）
- ②組織的な体制を組んだ学力補充（金曜朝）
- ②算数検定の実施

4 検証の指標と方法

(1) 児童は、自ら進んで考え、お互いの考えを伝え合い高め合っているか。

検証の指標		方法
①自ら進んで考えているか	・授業で、「なぜだろう」「やってみたい」と思っている。 ・授業で、「たぶんこうかな」「こうすればできるかな」と予想している。 ・授業で、自分から考え取り組んでいる。	【振り返りの内容評価】 ・1学期の記述と3学期の記述の内容比較 ・児童アンケート及び教職員アンケートの分析
②考えを伝え合い、高め合っているか	・授業で、自分の考えを積極的に伝えている。 ・授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、理由を明らかにして発表している。 ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりしている。 ・文章を書くときに、自分の考えが伝わるように書き方を工夫している。 ・友達と意見交流するときに、タブレットを使うことができる。	

(2) 学力は定着しているか。

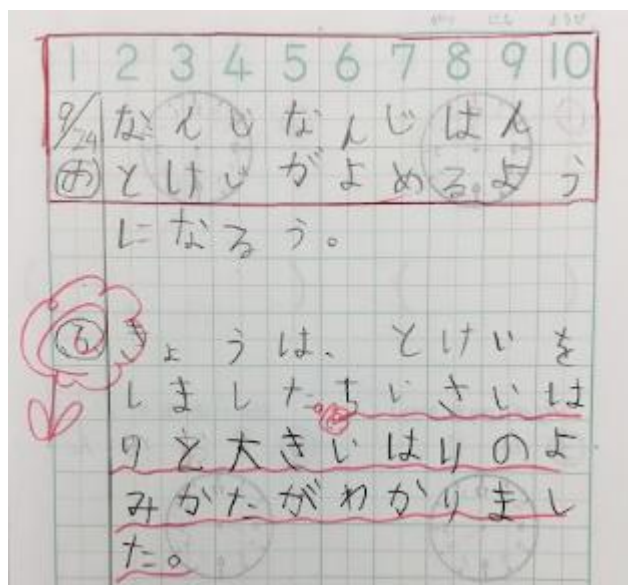
検証の指標	
単元末テスト(国語・算数)の平均通過率	低学年：80% 中高学年：75%
CRT が全国比100を超える児童の割合	低学年：60% 中学年：55% 高学年：50%

5 検証結果と考察(R7 年9月時点)

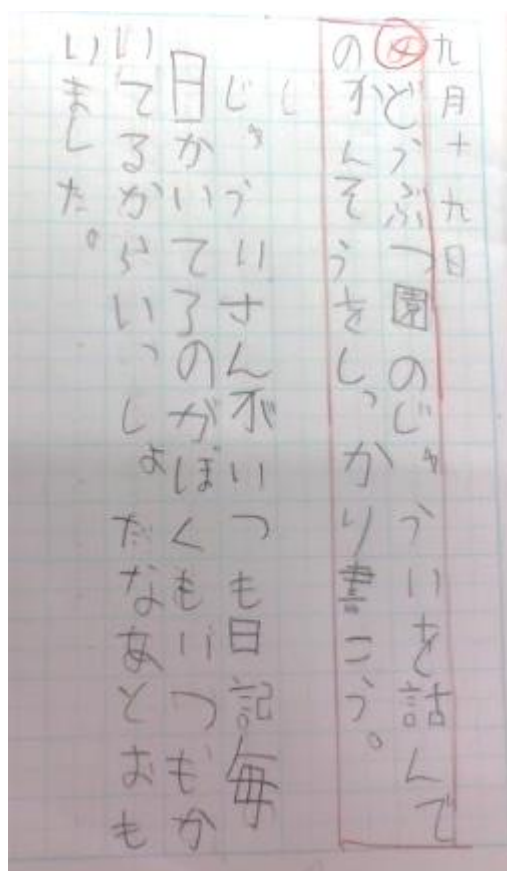
(1) 児童は、自ら進んで考え、お互いの考えを伝え合い高め合っているか。

【児童の記述内容】

(1年生)



(2年生)



(3年生)

4 行事で学んだことや感想
まつりでみんながのい
といてもらえるように
はっておまつりさんかいて
るように早くうたを

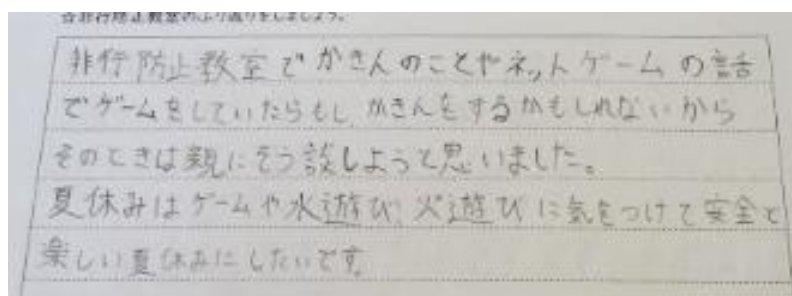
(4年生)

4 行事で学んだことや感想
わたいは、いちばんよくできましたと思った
ことは、ちいさな人とながよくなるが、よく
てきました。本地のちいさな人は、やさしい
人なんだな。とてもよくおもいました。
前半は、おもくせいかい、いっしょにまたのてで
つめ、するきにちいさな人とながよく
なれました。ちいさな人も、ちいさな人とも
ち、とてもよくはなせるようになり
たいです。ちいさな人にもあいさつをし
て、みんなのあいさつをしよと思、いま
した。

(5年生)

全校が「こまなないように必要なものをいっ
くじゅうできた
ソーランで大声をだしながらおどれた。
たくさんみんなの「こまなないようにしな
てきた。
ソーランが「センター」になったよう
な感じがする。
「つぎのうたといふが、いまだに耳を
よくしたい。

(6年生)



【アンケートの結果】

1ー(1) 授業で「なぜだろう」「やってみたい」と思っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童 (%)	32	56	10	2
教職員 (%)	33.3	44.4	22.2	0

1ー(2) 授業で「たぶんこうかな」「こうすればできるかな」と予想している。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童 (%)	37.5	50	8.3	4.1
教職員 (%)	11.1	77.8	11.1	0

1ー(3) 授業で自分から考えて取り組んでいる。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童 (%)	27.7	53.2	17.0	2.1
教職員 (%)	0	100	0	0

2ー(1) 授業で自分の考えを積極的に伝えている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童 (%)	30	50	16	4.0
教職員 (%)	11.1	33.3	44.4	11.1

2ー(2) 授業で自分の考えがうまく伝わるように、理由を明らかにして発表している。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童 (%)	22.9	43.8	31.3	2.1
教職員 (%)	0	11.1	88.9	0

2ー(3) 話し合いをして、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりしている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童 (%)	36	52	10	2
教職員 (%)	0	88.9	11.1	0

2ー(4) 文章を書くときに、自分の考えが伝わるように書き方を工夫している。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童(%)	24.5	55.1	14.3	6.1
教職員(%)	0	44.4	55.6	0

2ー(5) 意見交流するときにタブレットを使うことができる。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない
児童(%)	44	22	14	20
教職員(%)	11.1	55.6	11.1	22.2

アンケートの結果より、児童と教職員の回答を次の表に分類する。

A	B	C
児童も教職員も肯定的に感じている (双方の肯定的回答が 80%以上)	児童も教職員もやや否定的に感じている (双方の否定的回答が 30%以上)	児童と教職員の認識に隔たりがある (肯定的・否定的な回答割合の差が 30%以上)
・1ー(2) 授業で「たぶんこうかな」「こうすればできるかな」と予想している。 ・1ー(3) 授業で自分から考えて取り組んでいる。 ・2ー(3) 話し合いをして、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりしている。	・2ー(5) 意見交流するときにタブレットを使うことができる。	・2ー(1) 授業で自分の考えを積極的に伝えている。 ・2ー(2) 授業で自分の考えがうまく伝わるように、理由を明らかにして発表している。

ここでは、C のカテゴリーに注目する。児童は自分の発言や発表に対し肯定的に捉えている一方で、教職員は否定的な回答の割合が高かった。発言や発表の積極性や内容において、児童と教職員が目的・目標の共通認識をもつことが求められる。

(2) 学力は定着しているか。

検証の指標		結果
単元末テスト(国語・算数)の平均通過率	低学年 : 80%	国: 83.6 算: 85.3
	中高学年: 75%	国: 82.2 算: 83.9
CRT が全国比 100 を超える児童の割合	低学年: 60% 中学年: 55% 高学年: 50%	未実施 ※1 月実施予定

現時点での単元末テストの結果より、低学年及び中高学年はいずれも目標値を上回っている。日々の授業や学力補充等によって、基礎学力の定着が見られる結果である。